

2 指導案例<1>

「かんなの刃の調整を行い、こばのかんながけをしよう」(本時4/7時間目)

(1) 本時の目標

- ・正しい姿勢でかんながけを行うことができる。(技能)
- ・かんなの利用の仕方について工夫することができる。(工夫)
- ・かんなの各名称や刃の調整の仕方を正しく理解することができる。(知識・理解)

(2) 準備・資料

- ・教師：かんな、げんのう、さしがね(ペアに各1個)、USB顕微鏡
- ・生徒：教科書

(3) 学習過程

段階	学習活動	指導上の留意点 ☆評価の観点
つかむ 5分	1 部品をよりきれいに加工するためにはどうすればよいか考える。	○生徒にもものづくりの経験を振り返らせ、さまざまな意見が出るようにする。
広げる 15分	2 USB顕微鏡を使い、こぐち面を観察する。 3 グループで意見交流をした後、感想を発表する。	○かんな削りをした面と研磨紙で削った面を比較させ、どちらの加工がきれいに仕上げられるかを問う。 ○最初にグループ内で感想を共有させ、その後に発表するように促す。 ☆かんなの有用性に気付くことができたか。 (授業の様子)【工】
深める 20分	4 本時の目標を確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">かんなの刃の調整を行い、こばのかんながけをしよう。</div> 5 かんな削りを学習する。	○刃先の出の調整方法、裏金の調整方法、削り方のポイントを確実に理解させる。 ☆かんなの使い方を理解することができたか。 (作業の様子)【知】
活用する 10分	6 かんなの刃先の出を調整する。 7 こば削りをする。	○刃先の出を意識させ、ペアで確認しながら調整させる。 ○上手に削れない生徒に対して、削り方のポイントを意識して削るように促す。 ☆かんなを正しく使うことができたか。 (作業の様子)【技】

(4) 評価

- ・正しいかんながけができたか。(作業の様子から)
- ・かんなの有用性に気付くことができたか。(授業の様子から)
- ・かんなの調整について理解できたか。(作業の様子から)